# 新編

三十九編

甘泉文庫

へ13
3877
20

豪傑兒雷也譚三十九編
甘泉堂板
上

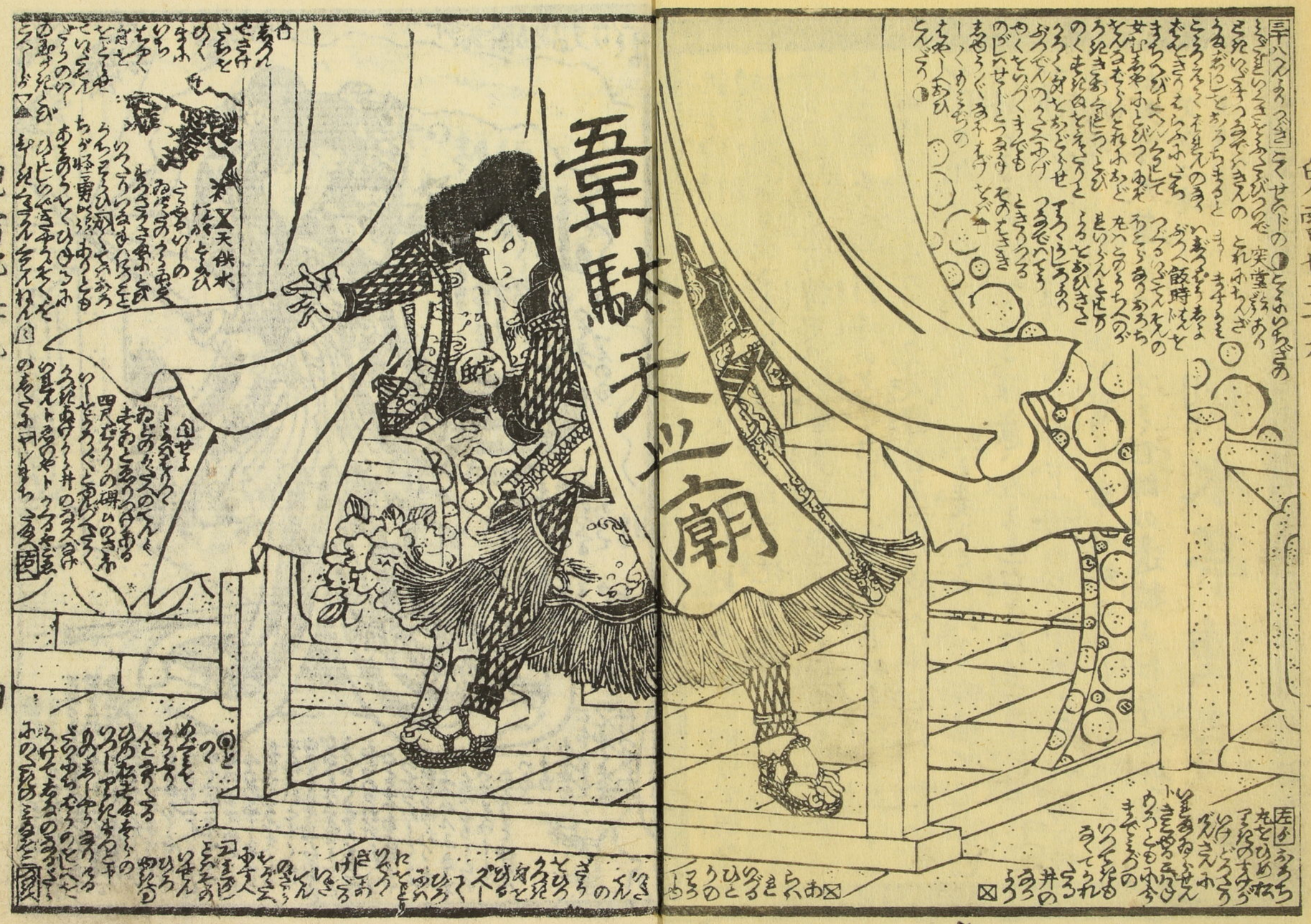
へ13
3877
10

ちらし雪や
雪かぶるあきとところ
新遊妓白露
古遊君岸河太夫
白露が本身は遠州榎ヶ池の大蛇にて周馬と夢まそ一くび駿府弥勤街の色男よそのきを沈るこ是や因地の高聖ヶ弥勤の出世をまろみ符合は然ハ「の色」ざる遂り大蛇丸が赤一とまりて毒を醞セこと大火坑の天を焼んとする性ハのり

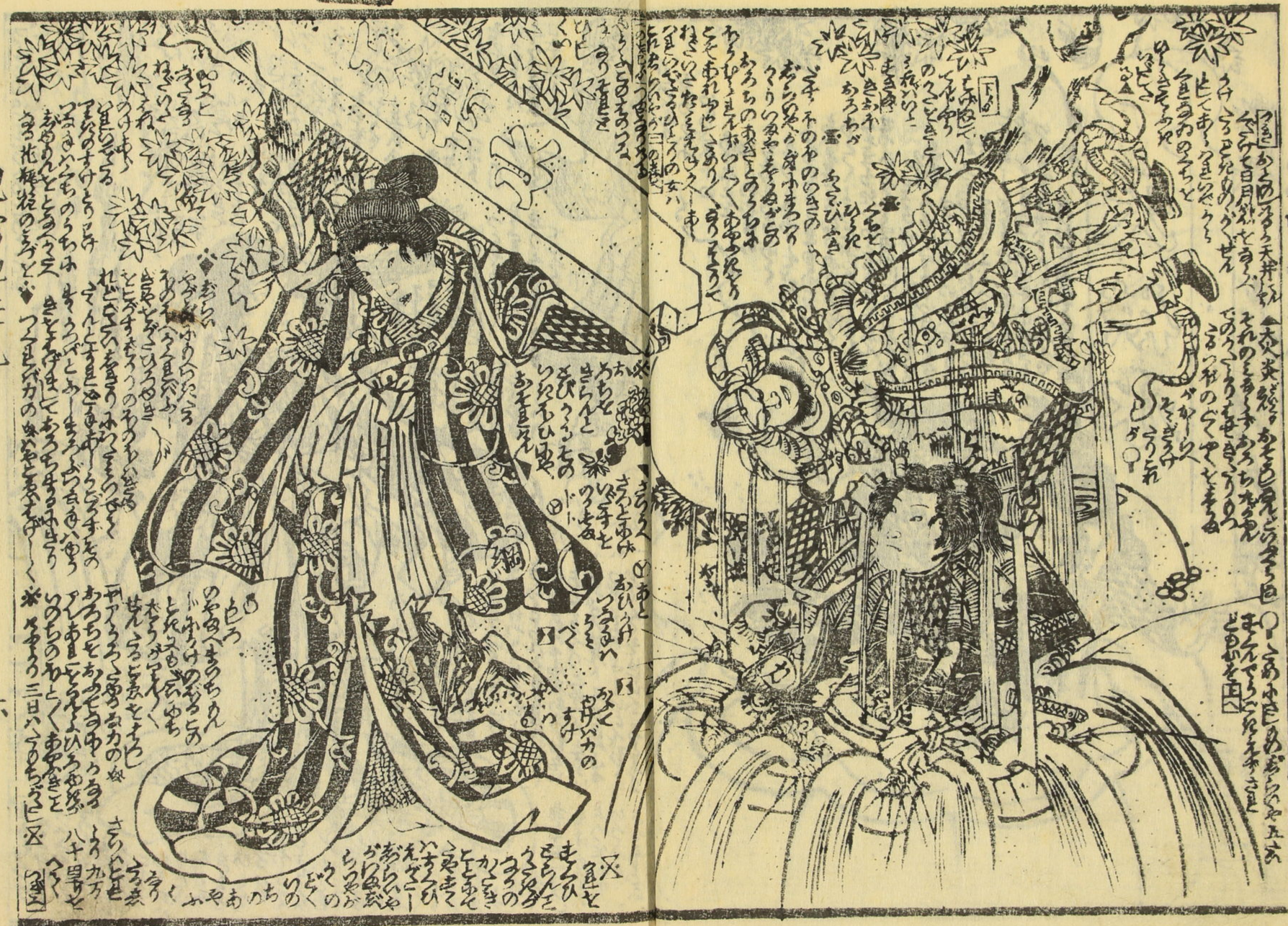
銚子戀情の鷄卵酒兒雷天下ゐ鞦韆蛇がふらゐの蝦蟆を睨めば
蛞蝓眼前ゑ出るとゝ唐の揚烟ゞ五言絶句を越後ぢんくゝ翻訳ー
たる這兒雷也の稗史ゐ所要奥議を開て視せ稟さんゑ聖書を
壁ゐ藏ちといゑ科斗の文字ゐをゝ書籍其故吏に手足を漆
て蝦蟆を刺るゐのゑゑん大標首ゐ雷を遣めい科斗よゝ雷の鳴
を聞て尾落然ーて足生ド蛙と変ると云詞ゝ蝦蟆を兒雷也
に帰るゐの狡然をる深意、左まも右まれ吾等が於玉杯子
を使ふい此身を極揚ら色て柳下一頭の家部流とゝゝび柳の枝
ゐ躍騰り小野の道風を驚ー傘ゐ蛇の目ゝちゝ確うせんと
蛞蝓半尺筆のゝゝゝせゝ亡師の遺稿ゑ拙序を加へぬ

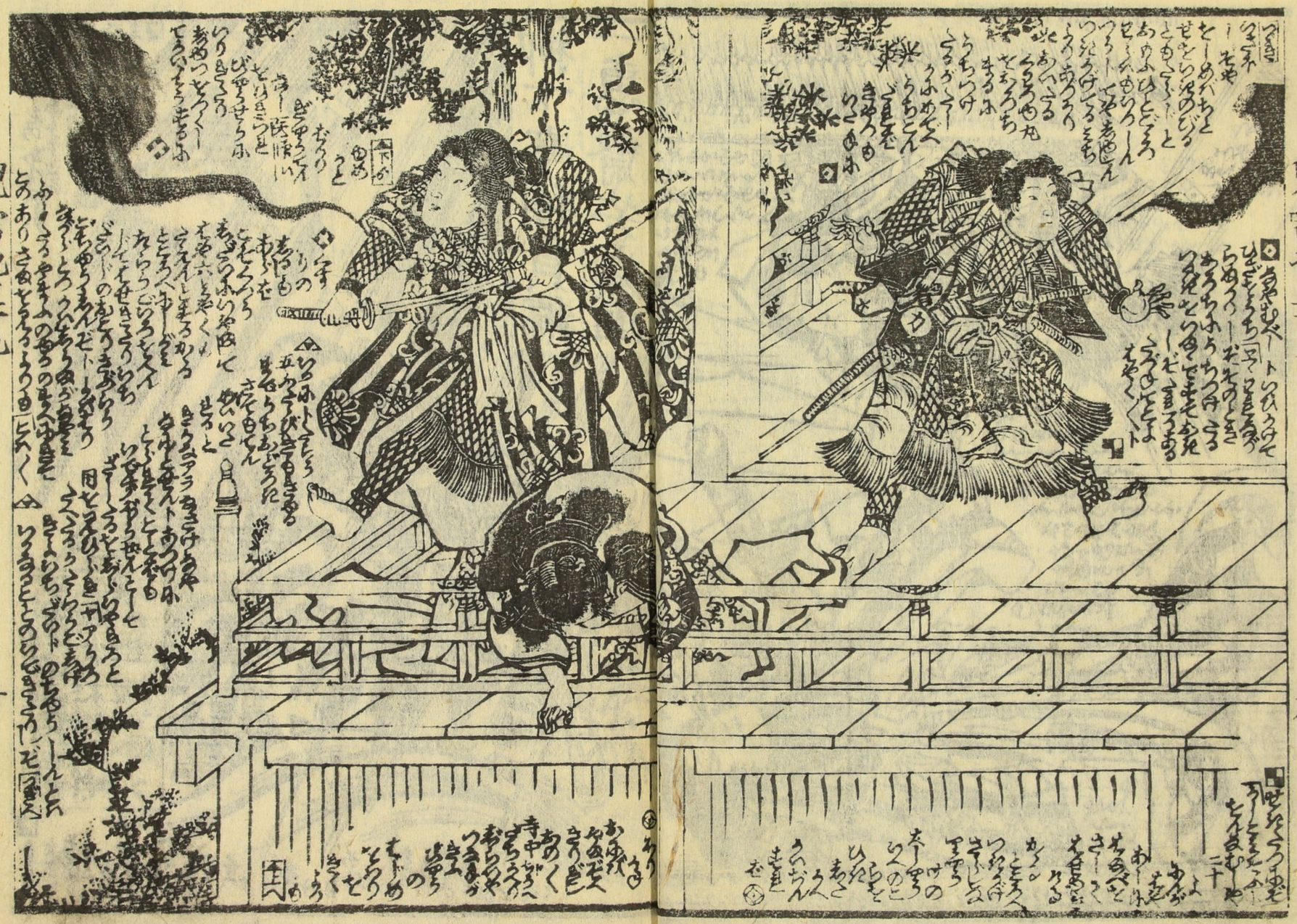
文久二稔
壬戌初春

# 柳水亭種清記


章駄天ノ廟

天狗
蛇





柳下亭種員稿
一恵齋芳幾画

元治二乙丑春新版

女郎花五色石臺
初編より十編迄大尾
柳下亭種員作
一恵齋芳幾画

黄金水大盡盃
十六編 十七編
爲永春水作
一恵齋芳幾画

壽齋國貞画
諸國繁榮遊與双六

風俗淺間嶽
十三編 十四編
柳下亭種員作
一恵齋芳幾画

忠臣貞婦
いろは文庫
八編 九編
柳煙亭種久作
同画

假名反古
一休草紙
十五編 十六編
同作同画

芝神明前
甘泉堂梓

柳下亭種員作
一惠齋芳幾画
下

# 児雷也

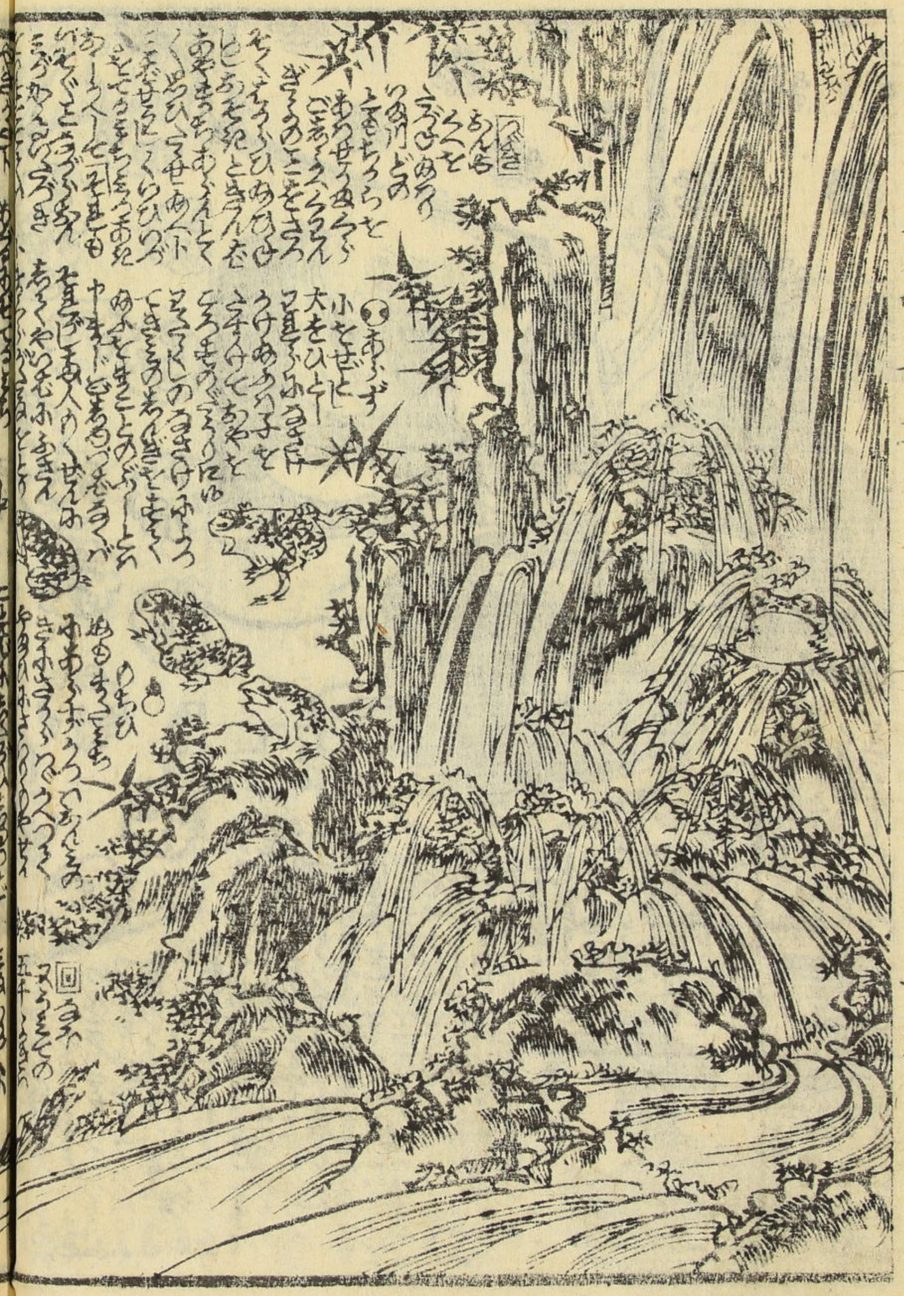
## 豪傑譚

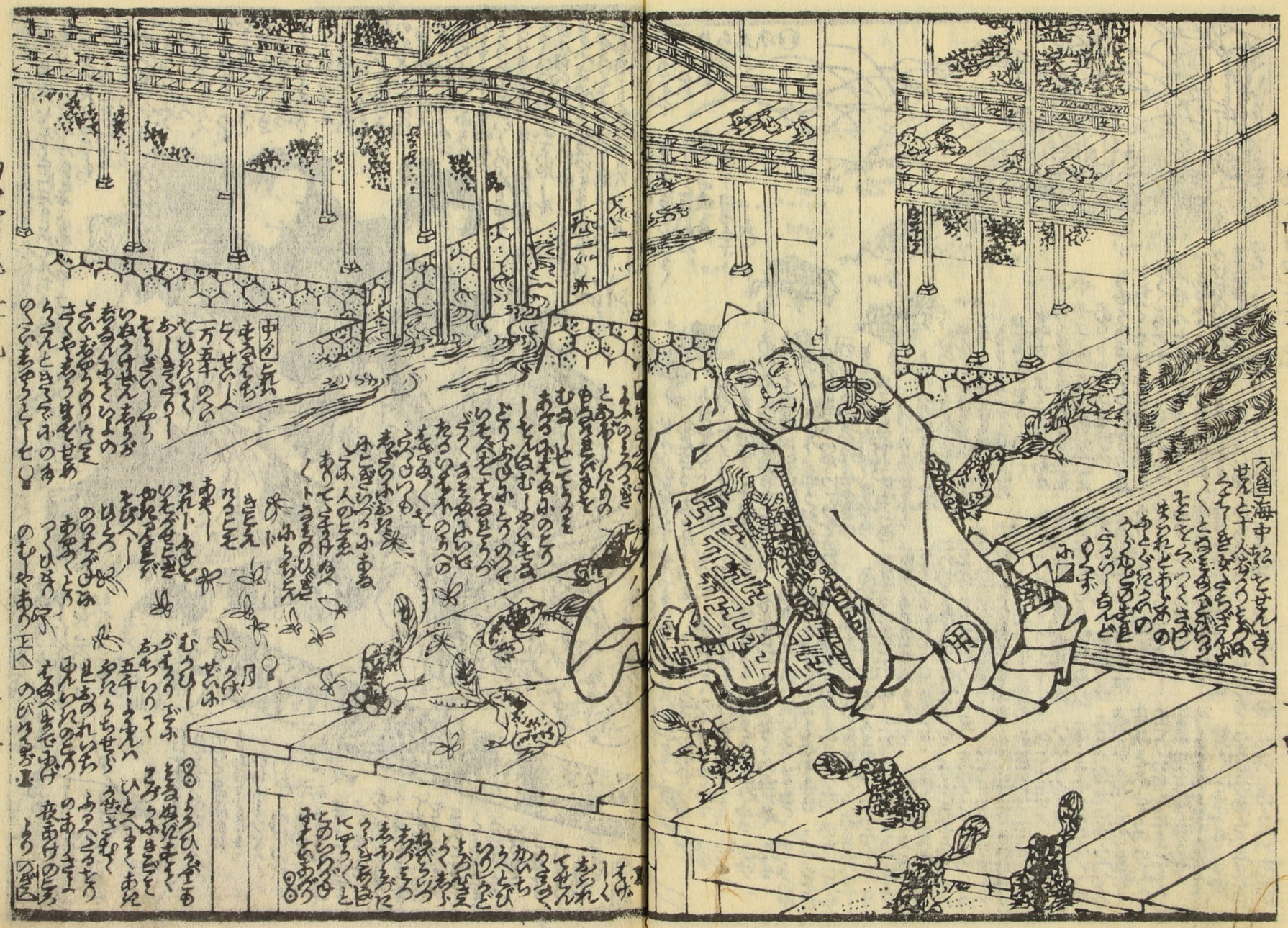
三十九之

柳水亭著

一惠齋畫

甘泉堂





芳幾画　種員稿

元治二乙丑新春刊行

兒雷也豪傑譚　四十一編　柳下亭種員作
四十二編　一惠齋芳幾画

新編金瓶梅　初編から十編迄　曲亭馬琴作
大尾　一陽齋豐國画

一陽齋豐國翁画
陰戯場猿若真似
山閑人　交來撰　年々出板

小女郎蜘蛛怨芋環
初編より二編迄　大尾
曲亭馬琴作
一勇齋國芳画

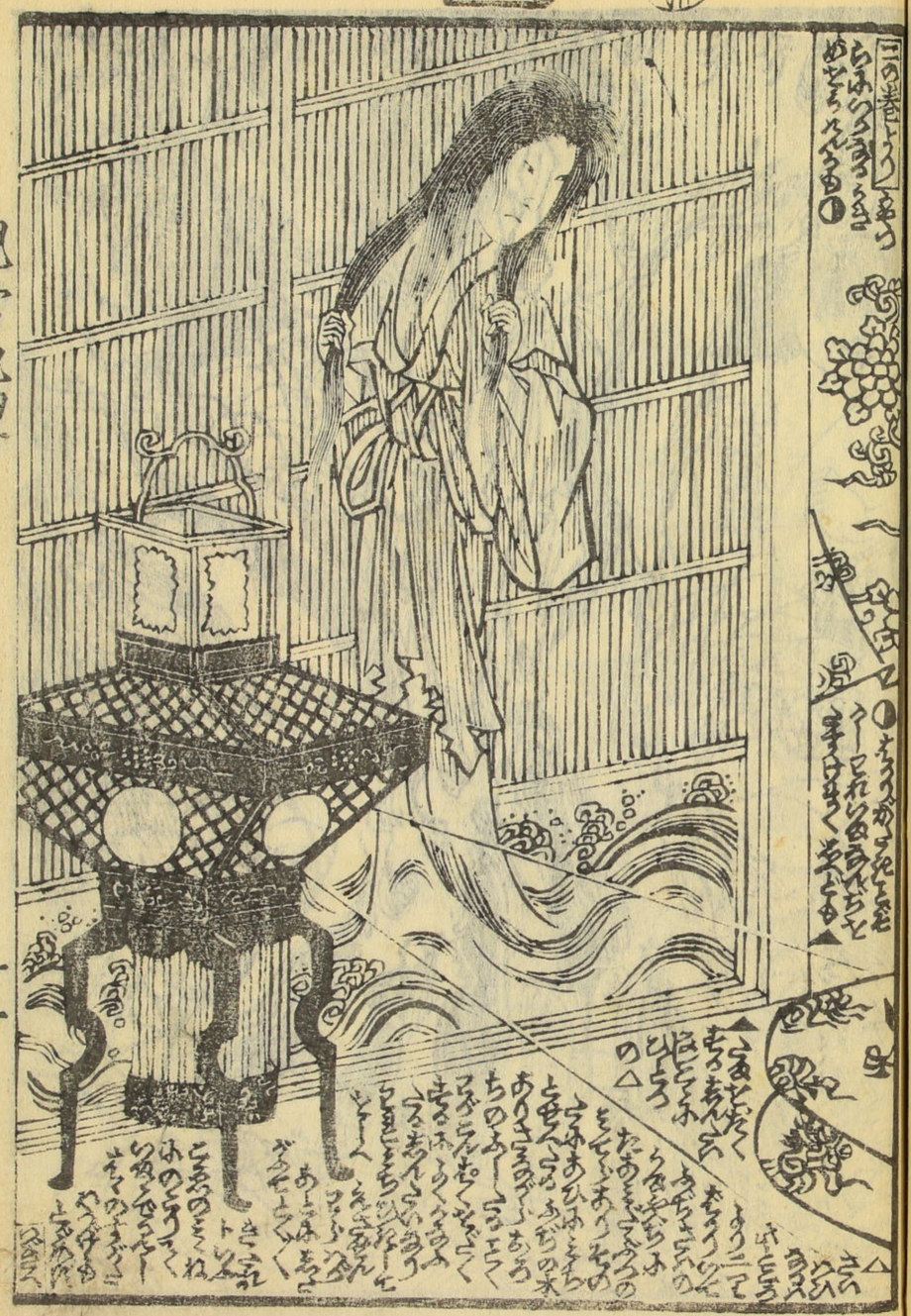
芝神明前　甘泉堂　和泉屋市兵衛版

# 児雷也豪傑譚

十四編

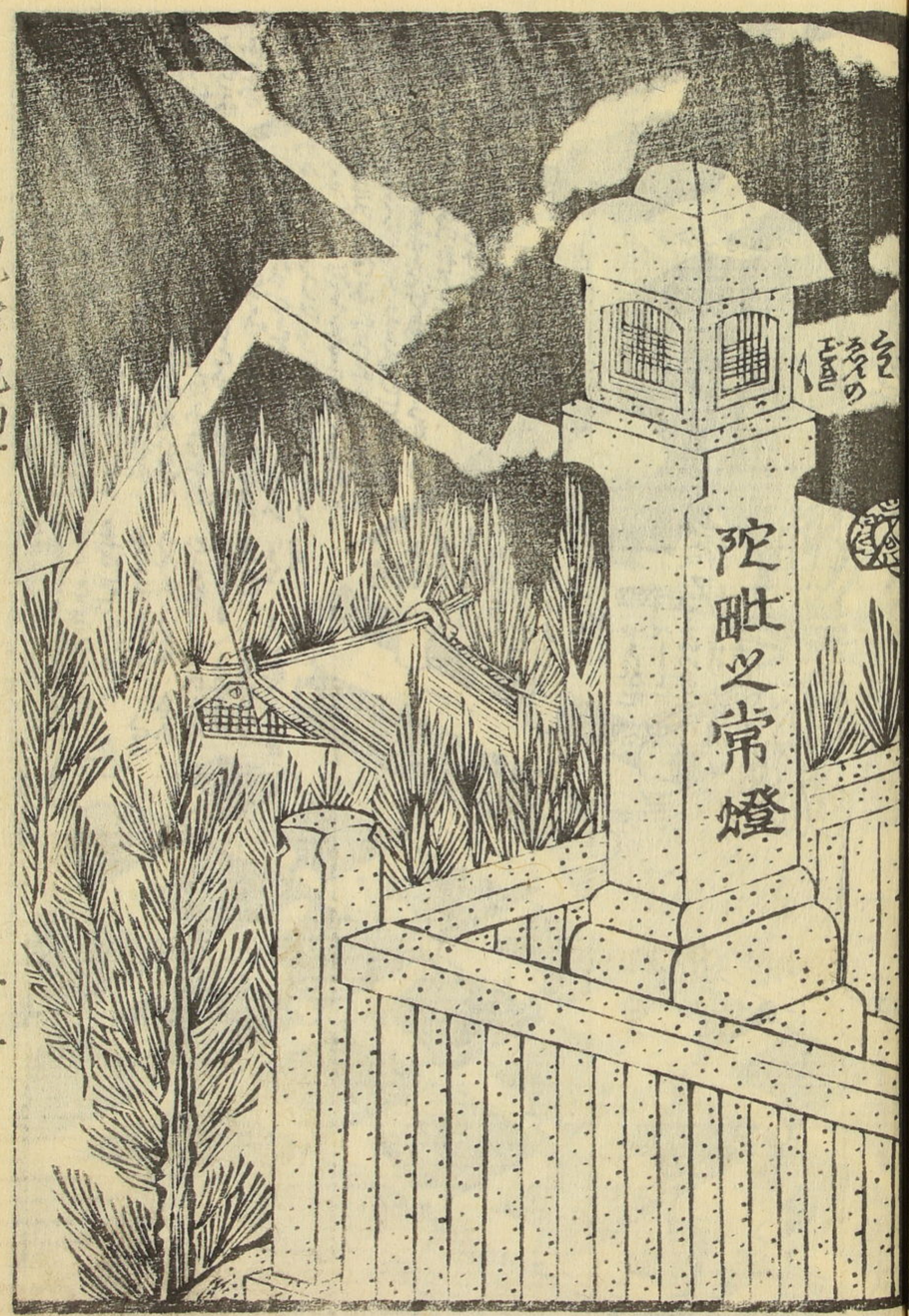
一恵齋芳幾画

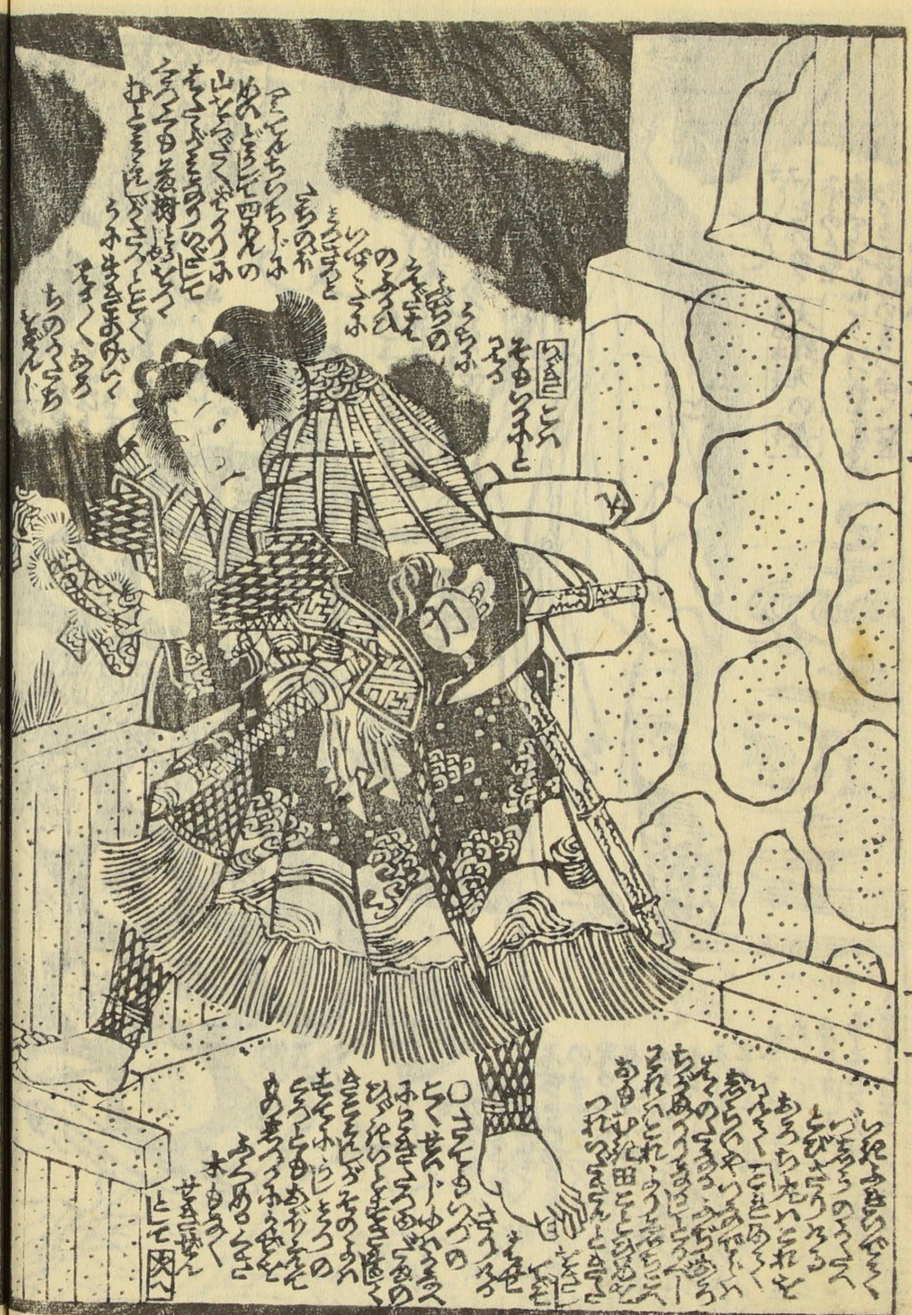
下

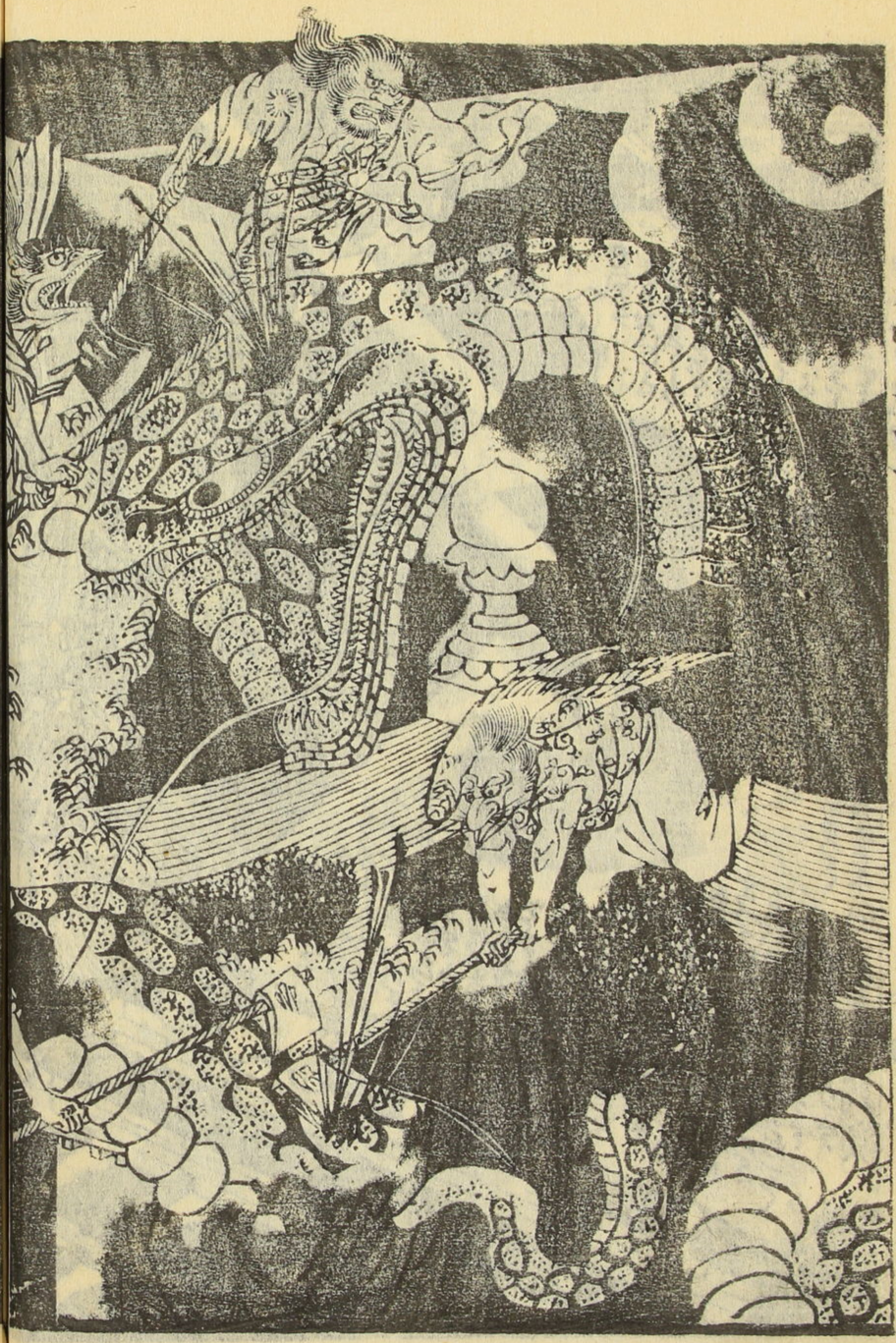


古藤精


大蛇丸の母
蛇

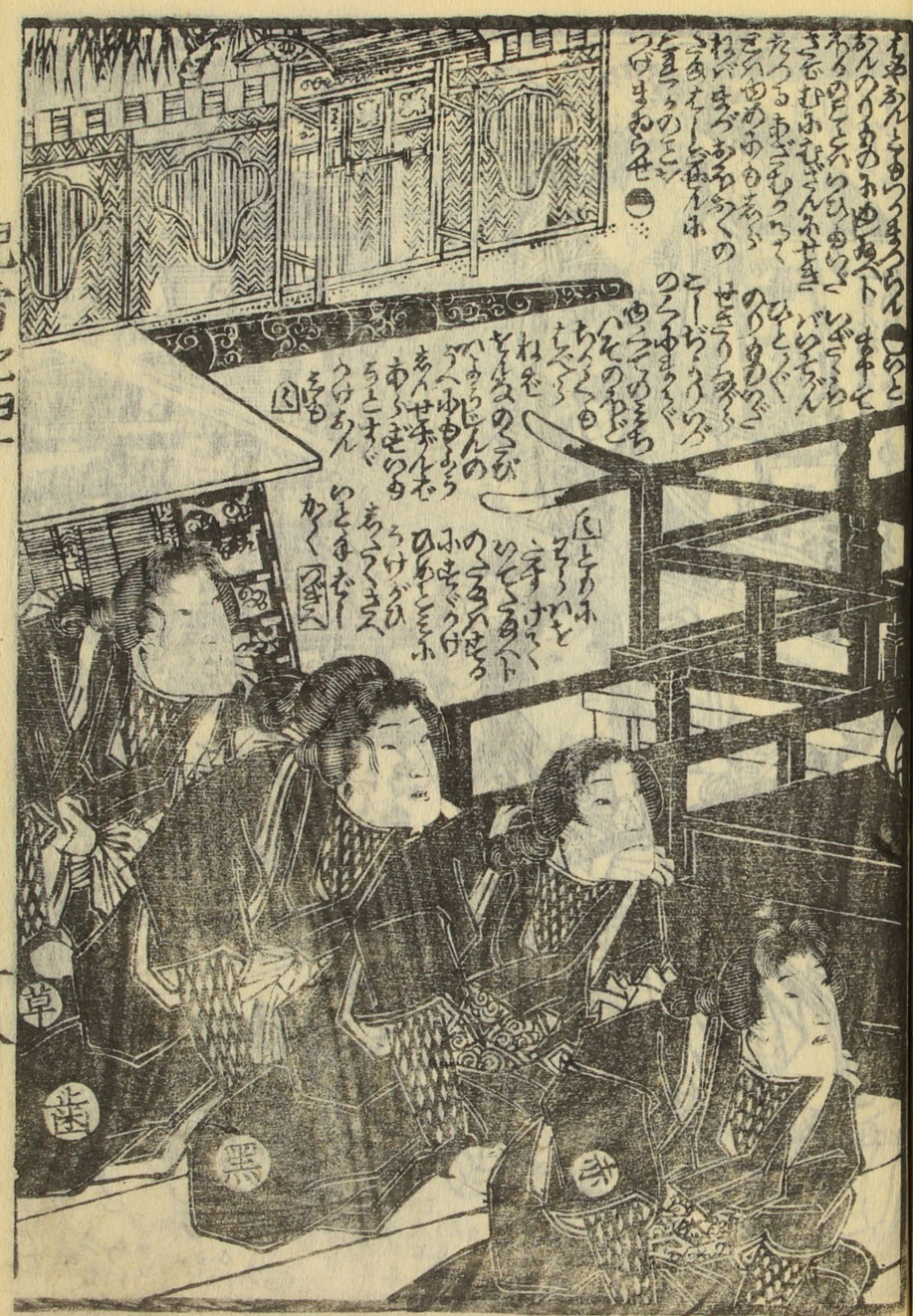

陀毗之常燈



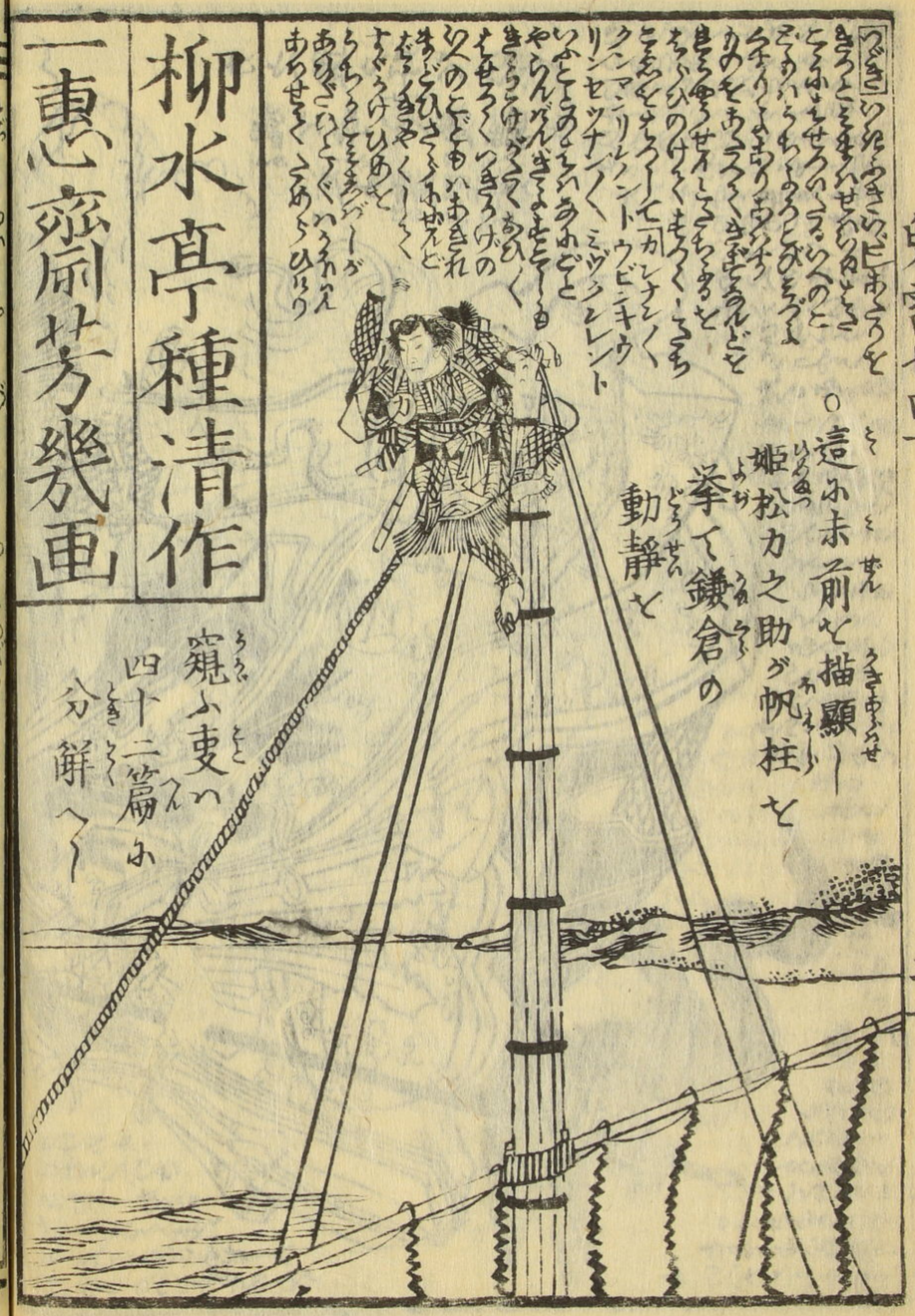


田舎の前


國を守る
弓術を練る時は
忽地欺き
変あり〻惑ひ


草
柴
黒
赤

田




元治二乙丑新春刊行

兒雷也豪傑譚 四十一編 柳下亭種員作 四十二編 一惠齋芳幾画

新編金瓶梅 初編十編迄 曲亭馬琴作 大尾 一陽齋豐國画

蔭戯場猿若真似 一陽齋豐國翁画 山閑人交來撰 年々出板

小女郎蜘蛛怨芋環 初編より二篇まで 大尾 曲亭馬琴作 一勇齋國芳画

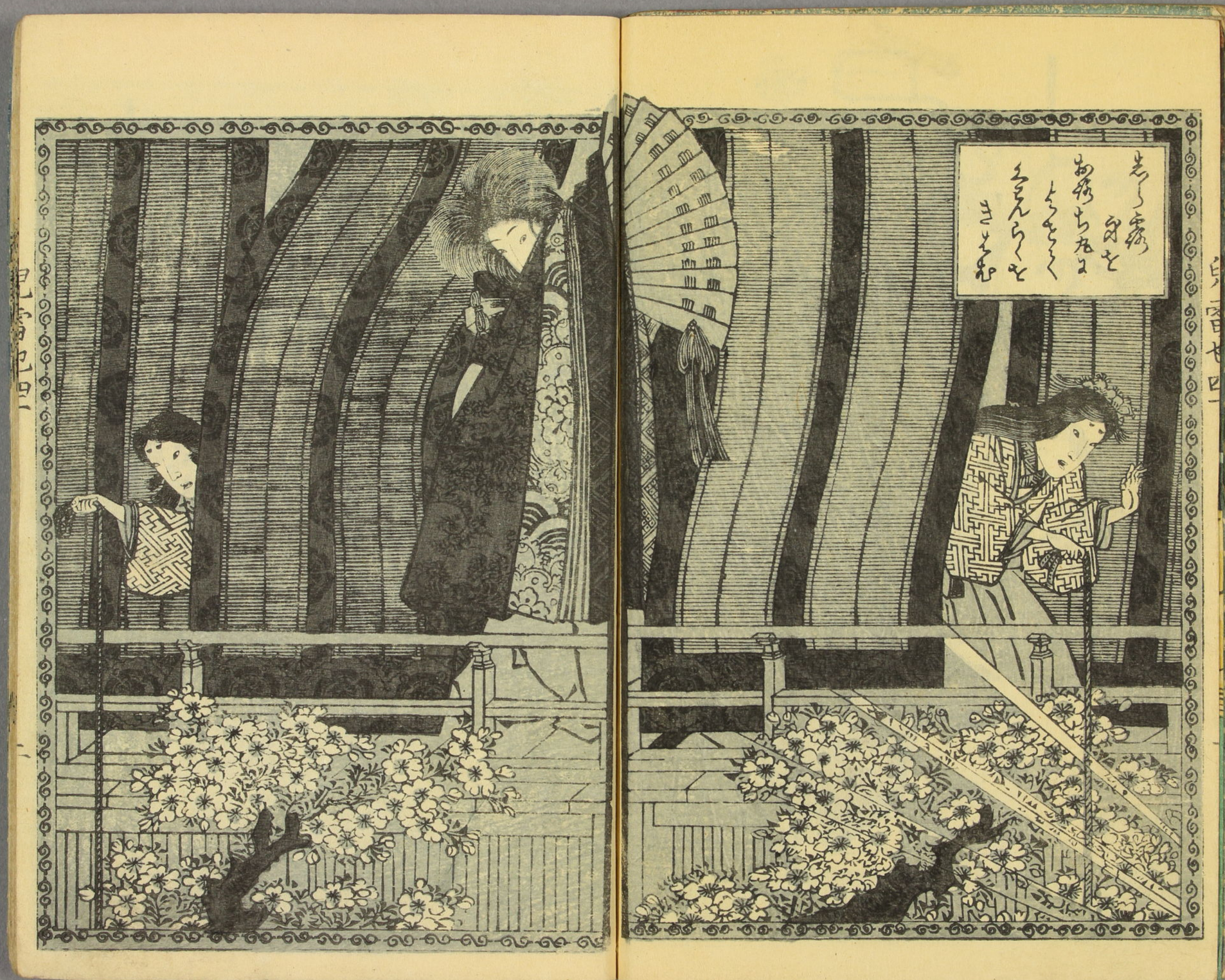
芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛版

柳水亭種清作
神明前泉市板
上

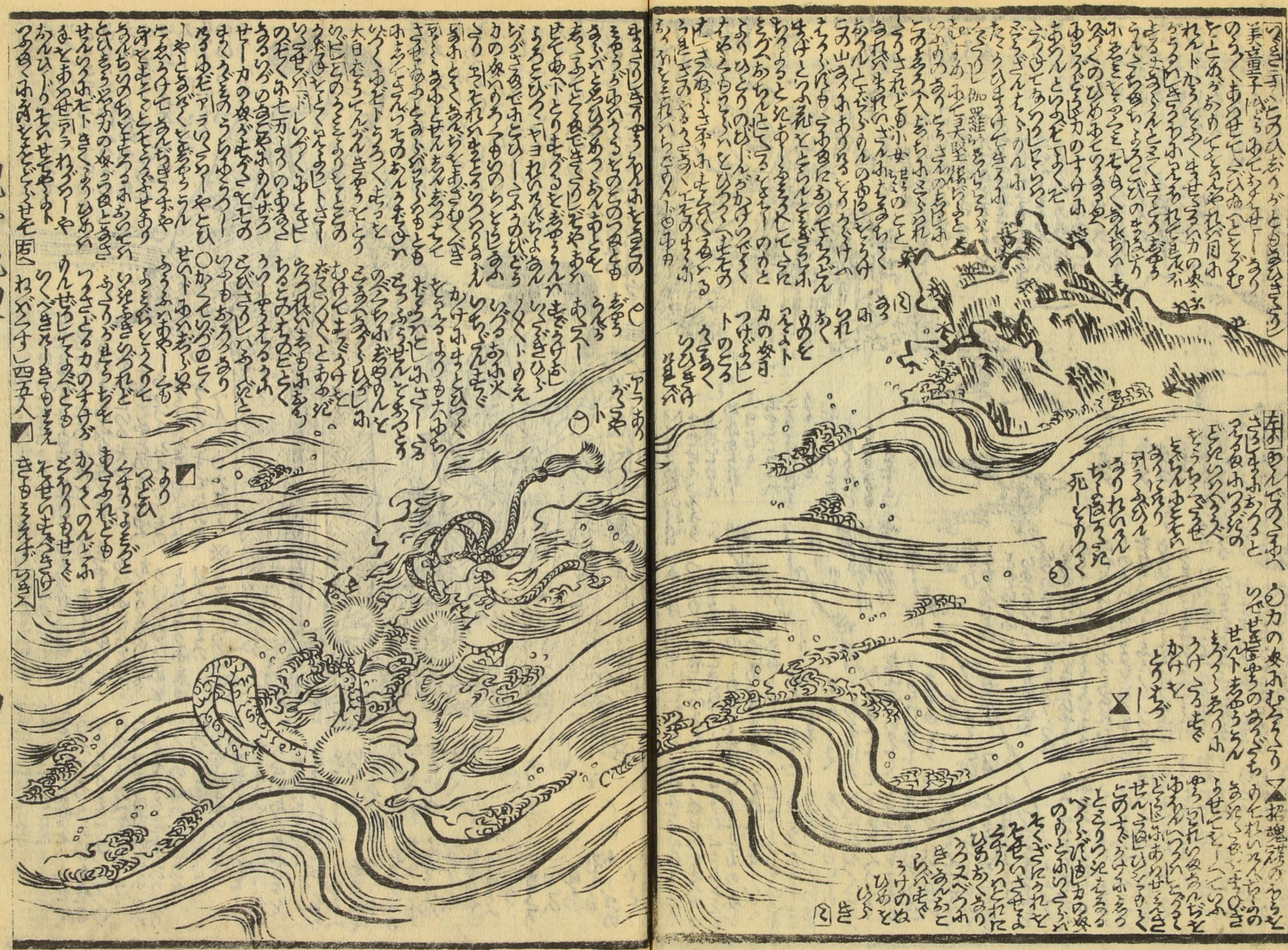
# 児雷也豪傑譚　四拾編上

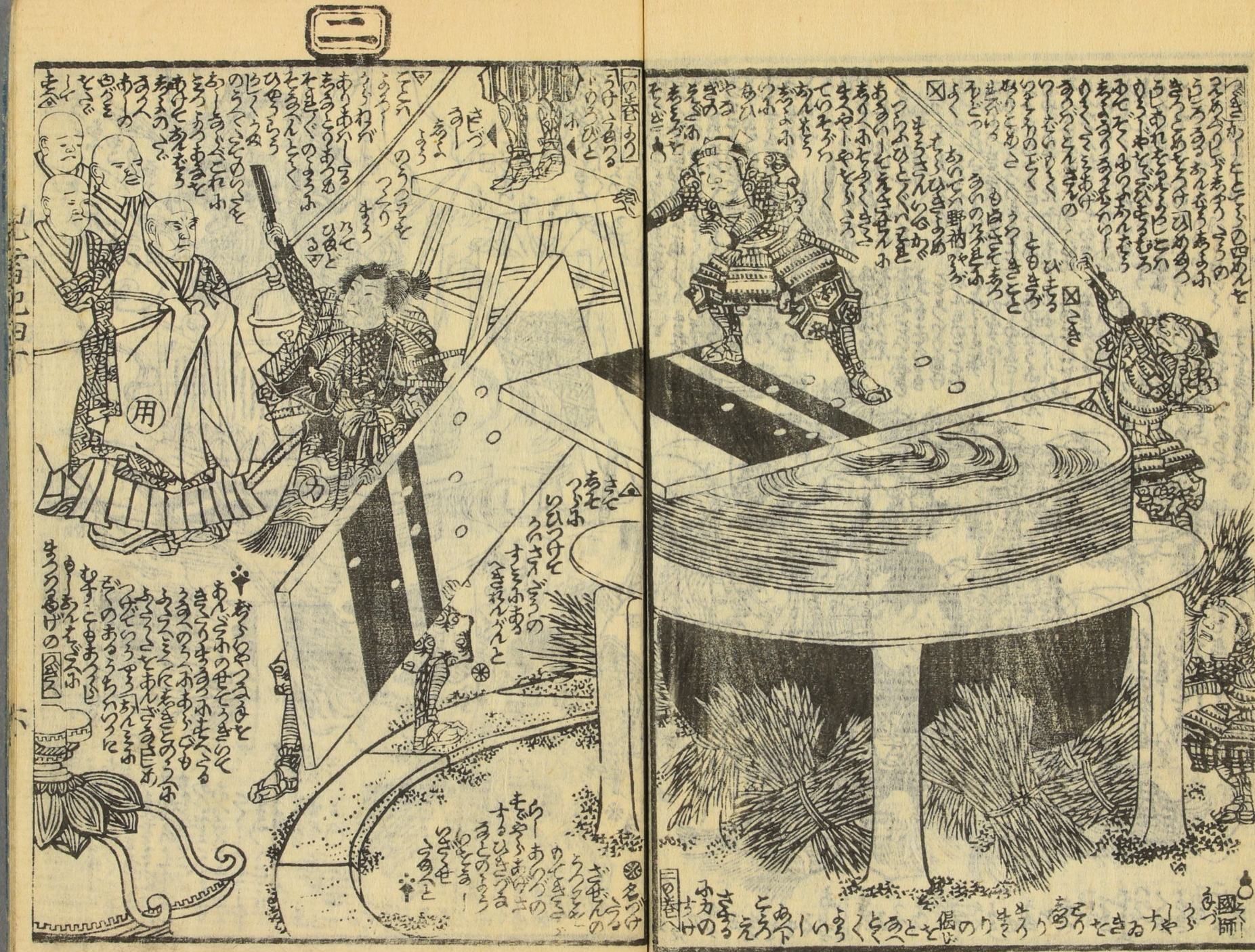
柳水亭種彦　作
一蕙斎芳幾　画

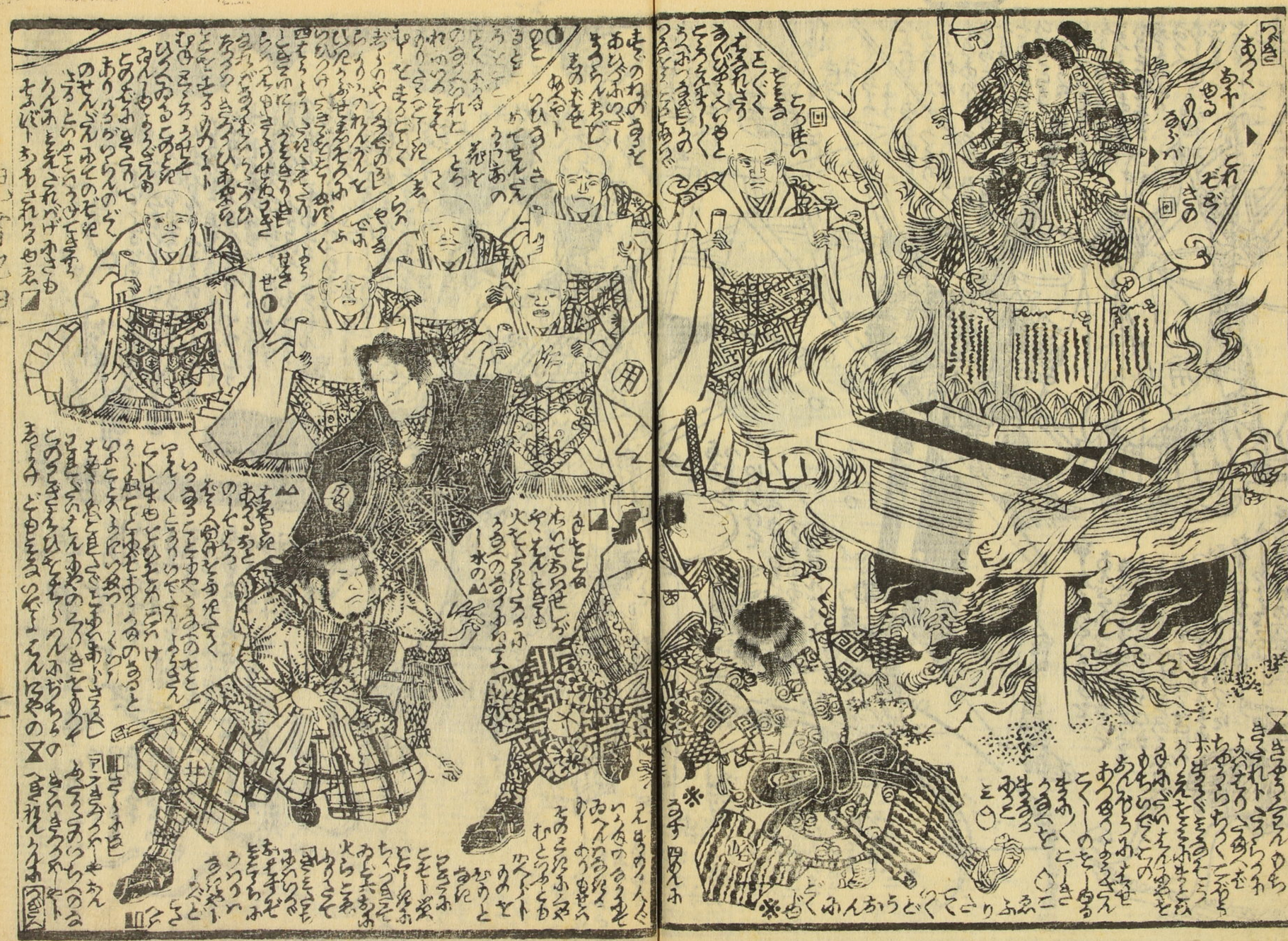
甘泉堂


さく霧
身を
あやまちなる
ちぢとく
ちぢんらくを
きたる和

尾形周馬寛行
任豆刀加大守







赤素

黒繩

老蛇戰北の女非車が髯をかりて身調る図



草掌

歯覆

人の女

図八

元治二乙丑春新版

女郎花五色石臺
柳下亭種員作
一惠齋芳幾画
初編より十編迄大尾

黄金水大盡盃
爲永春水作
一惠齋芳幾画
十六編 十七編

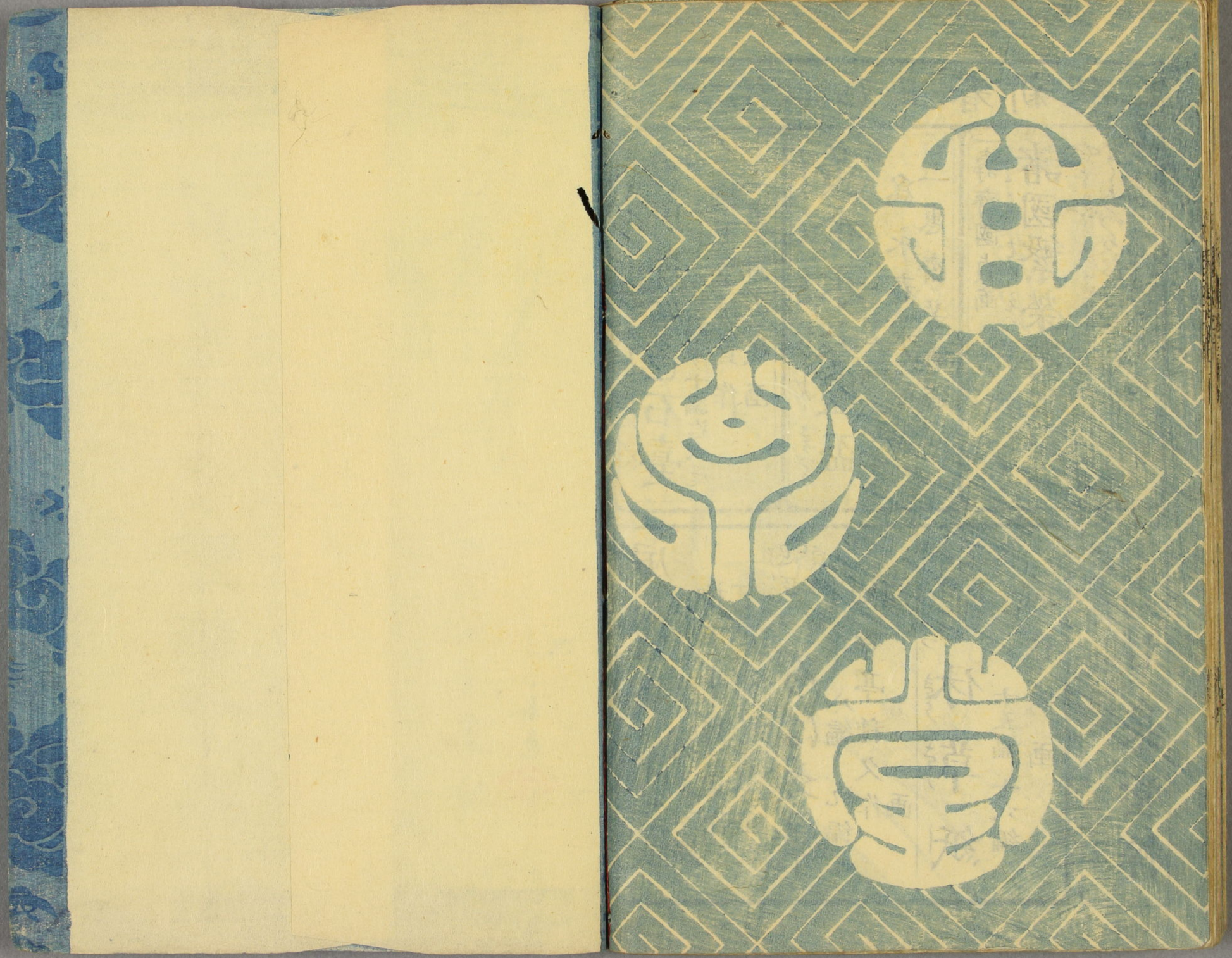
壽齋國貞画
諸國繁榮遊與双六

風俗淺間嶽
柳下亭種員作
一惠齋芳幾画
十三編 十四編

忠臣貞婦
いろは文庫
柳煙亭種久作
同画
八編 九編

假名反古
一休草紙
同作 同画
十五編 十六編

芝神明前
甘泉堂梓



# 児雷也豪傑譚四十編

為永春水著
歌川豊国画